

2013FIM世界耐久選手権シリーズ第2戦
“コカ・コーラゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース第36回大会
三重県・鈴鹿サーキット
7月28日(日)決勝 天候:晴れ 路面:ドライ
観客動員数:61,000人

Team Release

チーム一丸となって目指したチェッカーフラッグ

ついに鈴鹿8耐決勝日を迎えた。TOHO Racingとしては、3年目、TOHO Racing with MORIWAKIとしては、参戦2年目のレース。昨年は、Honda CBR1000RRの市販キット車で2位に入る快挙を成し遂げたが、今年は、伊藤真一が加入し、さらにパワーアップした体制で臨めたはずだった。

しかし、レースウィークに入るとコンディションの影響か、マシンのバランスが崩れてしまい、なかなかラップタイムを縮められない。さらにマイナートラブルも発生し苦戦していた。それでも山口辰也、渡辺一馬、そして伊藤という個々のライダーレベルが高く、マシンの状態以上の走りをしてきていた。チームも問題を解決すべく考え得るトラブルの芽をつぶしていった。

朝のウォームアップ走行でもトラブルが出てしまいドタバタしてしまっていたが、すぐにマシンを修復。マシンをグリッドに並べることができた。

スタートは、エースライダーの山口が担当。ハイペースとなる最初のスティントを並み居る強豪チームと共に周回を重ねていく。2番手には渡辺選手が、伊藤選手が3番手に出ていくローテーション。ポジションは、6番手から8番手の間を走っていたが、レース中盤からは、6番手を走っていた。当面のライバルは、昨年一緒に戦った高橋裕紀選手がいる#22 Honda Team Asiaとなっていた。#22にペナルティがあり、その差を開きたいところだったが、マイナートラブルを抱えており、思うようにペースを上げられないでいた。それでもライダー3人がトラブルをカバーする走り周回を重ねていく。最後のスティントで#22に逆転を許すものの7位でフィニッシュ。3年連続で鈴鹿8耐を戦い抜いたのだった。

このリリースに関するお問い合わせは下記まで
株式会社TOHO 野口佐智代
E-Mail: noguchi@tohoracing.jp
URL: <http://tohoracing.jp/>

〒739-0024 広島県東広島市西条町御園宇2694
tel (082)493-7895
fax(082)493-7894



第1ライダー 山口辰也

「まずは、今年も多くのご支援があり鈴鹿8耐を戦えたことに感謝いたします。伊藤選手と渡辺選手には、もっといい状態のマシンを乗ってもらいたかったのですが、無事に完走できたことは、よかったですね。結果は決して満足いくものではありませんでしたが、全日本後半戦、そして来年の8耐に生きると思います」

第2ライダー 伊藤真一

「2年振りの鈴鹿8耐でしたが、TOHO Racing with MORIWAKIの一員として走らせていただいたことに感謝します。ライダーとして、もっと貢献できればよかったです。が…。フィジカル的には、全く問題ありませんでしたし、もっと頑張りたいという思いが残っていますね」

第3ライダー 渡辺一馬

「TOHO Racing with MORIWAKIで走らせていただき、ライダーとして、すごく勉強できた鈴鹿8耐になりました。チームを始め山口選手、伊藤選手、応援していただいた方に感謝したいですね。決勝では、ケビン・シュワーツ選手と一緒に走れる機会もありましたし、貴重な体験ができました」

監督 齊藤博士

「決勝で大きなトラブルもなく完走できたことに価値があったと思います。ライダー、そしてメカニックのみんなが頑張り、チーム一丸となってつかんだ結果です。昨年の2位に勝るとも劣らない7位だったと思いますし、チームにとって、また一つ上のレベルに到達しましたね。今年も多くのご支援、ご声援をいただき、ありがとうございました」